

## 第5回粒子線がん治療医療連携専門家会議 会議概要

- 1 名古屋大学大学院医学系研究科の伊藤善之准教授から、「名古屋大学におけるがん治療の現状と今後の課題」と題して、高齢者のがん治療にかかる短期治療の必要性、放射線抵抗性のがんに対しての有効性、一般治療に炭素線を併用して局所制御率を上げることによる治療成績の改善などの観点から、粒子線治療の有用性、必要性について講演をいただいた。
- 2 委員からの主なご意見
  - ・ 従来のエックス線治療と粒子線治療のすみ分けができるようになればよい。例えば炭素線をブーストに用いるというような方式であれば、放射線と粒子線とが、お互いのいいところを分け合う形となり、うまくいくのではないか。
  - ・ 放医研は研究施設であるが、施設としてのベースをどこに置くかによって一病院として要望があるものはどんどんやっていく、エビデンスを出していく、両方やっていくなどいろいろな施設の有り様がある。
  - ・ 名古屋市の施設について、これまで確立されてきたプロトコルにあてはまらないが治療を希望するケースも想定されることから、他の施設と症例をシェアするなどして、ともに科学的根拠をつくりながらやっていけないか、との意見が出されたところ、粒子線治療臨床研究会では、これまでも粒子線治療の適応に含まれてきていない症例についてもトライをしていこうという話が出ており、今後、各施設が症例を持ち寄って協力していけば、そういうことができる土台はあるとの説明があった。
  - ・ 粒子線施設もこれだけ増えてきたので、厳しい基準のもとで症例を選択していくのと、患者の希望によるものと2つのグループがあってもいいのではないか。
- 3 愛知県及び名古屋市から、各々の計画の現状について簡単に説明を行った。(資料2, 3)